

近江神宮御鎮座七十年祭齋行

近江神宮は昭和十五年の御鎮座より満七十年も迎え、その当日の去る十一月七日、紅葉の始まった絶好の秋日和のもと、三百名にのぼる多数の参列をいただき、御鎮座七十年祭が齋行されました。普段の祭典にあまり参列いただいていない方々も多く、厚く御礼申し上げます。今後とも例祭や饗宴祭その他の祭典にご参列いただければ嬉しく存じ上げます。

この日の祭典では、天智天皇の往時の故事に因んで御創建当初より毎年御鎮座記念祭に行われている、近江八幡の大嶋奥津嶋神社宮司からの「むべ」の献納、続いて創美流華道家元による「献華式」清和四條流家元による「包丁式」が大前に執り行われました。祝詞奏上後、参列者代表に続いてご参列いただいた三百名全員が順次内拝殿に昇殿して玉串を奉り拝礼しました。祭典に引き続いて、境内のよいこのもり保育園園児により、音楽に合わせて太鼓を披露する



鼓隊の奉納が行われ、参列者の目と耳を楽しませました。当日は直会会場も勸学館の一階と二階の二会場に分けて行い、七五三の出入と合わせて終日賑わいを見せました。

七十年祭記念事業も時計館宝物館が去る四月に新装開館し、新装記念の高松宮展は一月末まで開催することになっていきます。経済状況まことに厳しいなか、七十年祭記念事業にご奉賛いただきました皆様には大変ありがたく、心より御礼申し上げます。

次第です。

なお、前日の六日夕刻、自然素材などを利用して独自の笛を作り各地の神社仏閣で奉納演奏を続けている、笛奏者の雲龍氏により、「近江神宮御鎮座七十年年に当り世界平和・五穀豊穰を祈念して」として献笛が行われました。

『近江神宮七十年小史』

御鎮座七十年を記念し、七十年小史が刊行されました。年表にいくらかの写真を添えた程度のまことにささやかなものですが、三十年前に四十年小史を作成した以後の分の追加に加え、四十年小史の誤りや不十分なところを一部訂正増補しました。七十年祭参列者と奉賛いただいた皆様には差し上げましたが、残部がありますのでご希望の方には実費でお分け致します。



宇佐山古墳群出土の土馬

平成23年『開運暦』3月1日の項に「満月(〇一・三八)」とあるのは誤りですので、お詫びして削除訂正致します。



平成22年正月拝殿献花



70年祭記念事業奉賛者の石玉垣

宇佐山古墳群発掘調査・砂防ダム工事

かねてより近江神宮境内南寄り上方の山腹には宇佐山古墳群と呼ばれる古墳群があることが知られていました。このほど柳川の支谷に相当する谷沿いの土砂流出防止のため国の事業として砂防堰堤の建設を行うことになり、それに先立って昨二十一年春より発掘調査が行われました。

その結果、弥生時代末(二〜三世紀)の周溝墓や古墳時代前中期(五世紀)の古墳が確認され、また弥生中期の竪穴住居、奈良時代の土馬や土器などの祭祀遺物、平安時代の蔵骨器なども出土し、大きく発表報道されました。

土馬は体長十五センチ程度で、雨乞いや長雨の雨止み祈願、疫病神封じなどの祭祀に使用されたと考えられ、奈良時代にも国家の関与した祭祀が行われたと考えられるとのこと。

年末年始の祭典等

- 十二月十三日午前九時 門松立て
- 十二月二十日午前九時 煤払祭
- 十二月二十三日午前十時 天長節祭
- 十二月三十一日午後三時 年越大祓式(続いて)除夜祭
- 一月一日午前〇時 歳旦祭(さいたんさい)
- 一月一日午前七時二分 初日の出遥拝式
- 一月二日午前八時三十分 日供始祭(につくはじめさい)
- 一月三日午前八時三十分 元始祭(げんしさい)
- 一月七日午前九時 昭和天皇祭遙拝式
- 一月八日午前九時 昭と天皇祭遙拝式
- 一月九日午前九時 かるた祭・高松宮記念杯全国歌かるた大会
- 一月十日午前八時三十分 天智天皇祭(天智天皇のご命日)
- 一月十五日午前十時 古神札焼納祭
- 二月三日午前十時 節分祭
- 二月十一日午前十時 紀元節祭

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られますので、ご覧ください。